

小学校  
管理職向け

# 管内あすかぶた働き方改革情報(教科担任制編)

## 県下教科担任制9指定校の取組から

中間報告では、多くの学校で時間外勤務減、負担減の効果があつたとの報告がありました。働き方改革以外にも、以下のようなメリット・デメリットが報告されています。

合言葉は  
 あ・あわせる  
 す・すてる  
 か・かんたんにする  
 ぶ・ぶたんする  
 た・たよる

### 《メリット》

- ・学年間での情報交換が密になり、組織力・協同性に向上が見られる。
- ・発達段階や教科の系統性を意識した指導により、授業の充実が図れる。  
それにより、児童の学力向上、教員の専門性の向上につながる。
- ・多面的な児童理解ができ、人材育成(学校経営力の向上)につながる。
- ・時間外業務時間(教材研究時間)が減少し、教職員の負担軽減が図れる。
- ・中1ギャップの解消につながる。 など



### 《デメリット》

- ・時間割の調整(特別支援学級、行事や出張、生徒指導等急な対応等)が難しい。
- ・担任以外が行っている教科の欠席児童・学力低位児童への個別指導の時間確保が難しい。
- ・情報共有時間(事前打ち合わせ、個人懇談のため等)が今まで以上に必要である。 など

働き方改革の視点だけでなく、組織力向上、学力向上、児童理解・生徒指導、人材育成、小中連携においても成果が報告されています。今回は、中間報告から**3つの例**をあげて紹介します。

小学校  
管理職向け

# 教科担任制の例①

## 例① 合同授業により担当コマ数を減らす！

担任以外の  
常勤教員なし

【通常学級6学級、特別支援学級1学級のA小学校の場合】

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計
児童数	9	11	8	10	7	12	3	60
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7

教員定数 9名  
(校長・教頭含む)  
非常勤講師1名(週12h)

《導入前》  
1年 週25コマ  
2年 週26コマ

※非常勤講師が週1コマ書写をしている。

教科担任制導入 担当コマ数 週2コマ減

技能教科を低・中・高学年で合同で行う。  
例えば、1年担任が、1・2年合同で図工2コマを行い、  
2年担任が、1・2年の音楽2コマを行う。

《導入後》  
勤務時間内にて  
できる担任・分掌  
事務時間が増え、  
1日18分(45分  
×2コマ÷5日)  
の時間外削減が  
期待できる！

小規模校の特徴を活かし合同授業を行うと、限られた教員数でも担当コマ数を減らすことは可能です。また、新採用で小規模校に配属された教員にとって20名程度の授業ができ、人材育成にも有効です。

小学校  
管理職向け

# 教科担任制の例②

## 例② 担当コマ数は減らないが、教材研究時間を減らす。

【通常学級12学級、特別支援学級3学級のB小学校の場合】

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計
児童数	54	49	66	47	58	48	16	338
学級数	2	2	2	2	2	2	3	15

教員定数 18名  
 (校長・教頭含む)  
 専科加配1名  
 特別支援加配1名

《導入前》  
 6年  
 30コマー理科3コマ、音楽2コマ＝  
 25コマ  
 教材研究必要コマ数  
 25コマ

教科担任制導入 教材研究必要コマ数 週5コマ減

学年間で交換授業を行う。  
 例えば、6年担任A教諭が学年2学級の国語を担当し、  
 B教諭が学年2学級の算数を行う。

《導入後》  
 担当コマ数は変わらないが、教材研究コマ数が20コマに減る。1日あたり1コマ分の教材研究時間が削減できる。

交換授業を行うと、担当コマ数は変わらなくても教材研究時間を減らすことができます。同じ授業を複数回実施するので、より質の高い授業を行うことができたり、指導内容や進度が平準化され、児童や保護者への安心感も生まれたりします。学年2学級以上ある学校に有効です。

小学校  
管理職向け

# 教科担任制の例③

例③ 特別支援学級担任がT1で授業を行う。  
特別支援学級担任のT1での授業コマ数が通常学級担任と比べ少ないとき

【通常学級6学級、特別支援学級2学級のC小学校の場合】

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計
児童数	29	34	33	22	30	28	4	180
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8

教員定数 10名  
(校長・教頭含む)  
特別支援加配1名

## 《導入前》

6年  
30コマ－音楽2コマ＝28コマ

教材研究必要コマ数  
28コマ

教科担任制導入 教材研究必要コマ数 週2コマ減

特別支援学級担任が教科を担当する。

例えば、自情学級児童が通常学級で授業を受ける場合、T2で参加する予定だった自情学級担任が、6年家庭科を担当する。通常学級担任はT2で参加する。

## 《導入後》

担当コマ数は変わらないが、教材研究コマ数が26コマに減る。週2コマ分の教材研究時間が削減できる。

通常学級担任は、特別支援学級担任の代わりにT2(特別支援学級児童の指導)として参加しますが、通常学級担任の教材研究時間を減らすことができます。特別支援学級担任のT1での授業コマ数が通常学級担任と比べ少ないときに有効です。特別支援学級担任の状況や得意教科を考えて判断することが必要です。